



詩篇第一巻
詩篇12-31篇

詩1巻. 2集. 3集.		2012.6.6
19. 義道	1-11: 幸 善悪を記す (主)	13. 喜樂 12
◀ a. 主の声	12-18: 主は岩 主は受け石 (主) 主は信賴の岩	▼ b. 敵と戦はる ▼ a
22a/b 力王	19-31: 王は羊飼 主の家に住む (主) 岩を牧者に信賴せよ (主) 羊飼 (主) 羊飼 (主) 羊飼 (主)	15. 舌唇 14
◀ c. 主に信賴し主の御心	12-18: II 40 エル 22 (Ps 18) 主は岩 / 申 32: 主は岩	▼ d. 義は 主の心に 主の心に ▼ c
24 力王	II 40 エル 23: 主の最後の言葉 / 申 33: 主の最後の言葉	17. 舌唇 16
26 感謝	19-31: I 歴 16: 契約の箱 主の言葉を賛美 / 30: 主の言葉を賛美	18 復讐 18
	I 歴 17: 主の家と羊飼 (主) 羊飼 (主) 羊飼 (主) (Ps 27, Ps 31)	

第1巻の第2集と第3集の分析の訂正です。19から32、第3集のほうですね。「王様は岩のこどもである」というように書いていましたが、確かにそれはそうなのですが、それよりは「王様は羊飼である、牧者である」と書いたほうが良いだろうということです。

23篇が入っているからというだけではないということなのですが、12から18のほうは「主は岩」19から31のほうは「王は羊飼」ということで、羊飼いに対して、こんど羊たちは感謝の声で応答しているという「声」があります。

19と29に「主の声」というのが出てきます。主の声を聞き分ける、良い牧者の声を聞き分ける羊というヨハネ福音書も教えてくれているように、主の声を聞くのは羊たちである。主の声は良い牧者の声であるということです。

そして、その良い牧者のヨハネの中に「私は羊の門です」ということがありましたけれど、24篇、門が上がりなさい、上がれと門に命じて栄光の王が入ってくるというのは、まさにその羊の門が上がるということを行っているんであるということなのです。栄光の王、世の光が入ってくる、私たちの栄光の光である羊飼いがその家に入ってくるということで、「私は世の光である」ということも言われているところだろうということです。

その羊飼いは義しい道に導くというのは23篇にもありますけれど、25と27は「私は道である」、26篇は「歩み」の話をします。羊を義しい道に導いてくれるその道であるキリストに導いてくれるというようなことも書かれています。罪を赦して、罪を負って、すべてを、自分の命を捧げて羊を守ってくれる羊飼いであるということが19から31の中に強調されているものだと思いますので訂正しました。